

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート 調査結果報告書

調査期間：平成 23 年 11 月 9 日（水）～平成 23 年 12 月 26 日（月）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1. 調査主体
2. 調査目的
3. 調査対象
4. 調査期間
5. 調査方法
6. 回収方法
7. 回答数

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

参考資料

- ・新中央図書館基本計画第一次案
- ・アンケート用紙
- ・新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力をお願い

（別添資料）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

はじめに

今回新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ（以下、「新中央図書館」、「WG」）が実施したアンケートは、前年度にWGで検討を重ね、WGの上位組織である新中央（文系）図書館検討専門部会において承認された新中央図書館基本計画第1次案（以下、「基本計画案」）を受けて、新中央図書館に対するニーズ調査の一環として実施したものである。

WGでの検討の結果、アンケートの対象者を学生と教員に分けて別個にアンケートを作成し、大学院生については両方のアンケートへの回答を依頼することとした。またアンケートの対象部局は、低年次学生についてはすべての学部、学部3年生以上の学生および教員については伊都キャンパスの文系地区を構成する学部、学府、研究院を主な対象とした。

今回のアンケートの主な目的はWGが基本計画案のなかで示した新中央図書館への機能の集中化という理念が教員や学生が新中央図書館に対して求めているものと合致しているかを把握することと、アンケートの結果を今後基本計画の施設・設備計画を策定していくうえでの検討材料とすることにあつた。

アンケートの内容について、学生アンケートでは現在の図書館の利用状況と新中央図書館への期待度を調査する内容とした。いっぽう教員アンケートでは、自身の教育研究における学内資料の利用状況や、基本計画案の趣旨をふまえたうえで新中央図書館での資料の収集方法や図書館のあり方等についてどのような要望を持っているかを調査する内容とした。そのため教員アンケートには基本計画案のほか新中央図書館についての検討経緯等を説明した文書を添付し、回答にあたって一読していただくこととした。実際の質問項目については参考資料として実際のアンケート用紙をこの報告書に添付するのでそちらを参照いただきたい。

各アンケートの詳細な集計や分析は後に示すが、今回のアンケートの回答結果からは全体として基本計画案の理念が教員や学生が図書館に対して求めているものと合致していると認められた。

まず学生アンケート回答からは、基本計画案が学生の要望に充分応えうるものであり基本計画案を確実に実現することが伊都キャンパスにおける学生の学習・教育・研究環境の飛躍的な向上に必要であることということが確認できた。

一方教員アンケート回答からも、WGが基本計画案で示した理念は教員の新中央図書館に対する要望をある程度反映できていると判断できる。なかでも移転後の図書館のあり方に関する設問への回答では、基本計画案が示した新中央図書館への資料や機能の集中化の方向に一定の理解が得られたものと考えている。ただし人文科学研究院と法学研究院では「機能分散型」「完全分離独立型」を求める回答が4割程度あり、必ずしもすべての部局で新中央図書館への資料や機能の集中化を求める回答が多数を占めたわけではない。

新中央図書館として各部局が考える望ましい図書館のあり方を実現していくためには、今後検討をすすめるなかで、さらなる各部局との調整が必要となるであろう。

また今回実施したふたつのアンケート調査を通じて、図書館の基本機能の充実、そして図書館の立地についての重要性が改めて確認された。いいかえれば教員・学生の両者からこのような当然の要望が強く出されたことは、現在の附属図書館が必ずしもこれらを充分には満たしていないという認識が示されているといえよう。

最後に今回のアンケート回答では、図書館が有するモニュメンタルな機能についても複数の

意見が寄せられた。この点についてはWG内でも度々議論されたところであるが、新中央図書館は単なる書庫＋閲覧室ではなく、九州大学のシンボルとして中核的な機能を担うことが求められると考えている。とくに、南から伊都キャンパスにアプローチする学園通りのほぼ正面に位置する斜面に建設予定される新中央図書館には、九州大学全体のイメージを象徴するランドマークとしてのデザインが求められるであろう。

調査の概要

1. 調査主体

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

2. 調査目的

新中央図書館の主な利用対象者と想定される部局の教員および学生を対象に、現在の図書館と図書の利用等についての実態把握と、施設設備を中心とした図書館に対するニーズを把握することを目的とし、調査結果にもとづき施設・設備計画の策定を進める。

3. 調査対象

教員 ・ ・ ・ 伊都キャンパスの文系地区を構成する研究院及び留学生センターの教員
大学院生 ・ ・ ・ 伊都キャンパスの文系地区を構成する学府
学部生 ・ ・ ・ 全学部（1、2年生）
 伊都キャンパスの文系地区を構成する学部（3、4年生）

4. 調査期間

平成 23 年 11 月 09 日（水） ～ 平成 23 年 12 月 26 日（月）

5. 調査方法

アンケート用紙の配布および Web アンケートフォームによる調査

6. 回収方法

学部生 . . . 授業内でのアンケート用紙配布と当日中の回収、Web 入力
大学院生 . . . Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）
教員 . . . Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）

7. 回答数

学部生 . . . 2,152 名
大学院生 . . . 55 名（学生向けアンケート）
 37 名（教員向けアンケート） 研究員 2 名を含む
教員 . . . 109 名

詳細な回答者内訳、回答率等は各アンケート報告に記載

※大学院生については、学生向けと教員向けアンケート両方への回答を依頼した

- ・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）
- ・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

別添資料を参照のこと

おわりに

今回のアンケートの調査では、全学教育の英語の授業を担当されている先生方をはじめ多くの先生方に授業内でのアンケート実施にご協力いただいた。学生アンケートでは2,000人を超える学生から回答を得ることができ、実施にご協力いただいた先生方に深く感謝するとともに、忙しい教育・研究の合間に教員アンケートに回答いただいた各部局の先生方にも改めて御礼を申し上げる次第である。

WGでは今回のアンケート結果や図書館の利用データ（入館/貸出/在席数調査等）などをあわせて分析することで、新中央図書館が果たすべき機能を空間的にどう実現していくかについて引き続き検討を続けていくこととする。また今回のアンケート結果を平成24年度に行われる伊都キャンパスの文系地区基本設計のための参考資料のひとつとして全学的に共有したいと考えている。

最後に今後の新中央図書館の検討にむけて、今回のアンケート調査を通じてのWGの意見を述べることにしたい。

WGでは、新中央図書館が大学図書館としての基本機能を果たすためには、現在とくに箱崎地区に見られるような、研究棟に主要な資料が所蔵されている状況を新中央図書館へ集中させていく方向に変えていくことが望ましいと考えている。今回のアンケートへの回答からは蔵書の充実が教員のみならず学生にとっても新中央図書館が果たすべき最重要の機能として考えられていることが確認できたが、全学の利用者や一般市民への公開までを含めた資料の共同利用という観点や、資料の管理・保存環境を考えると、適切な設備の整った新中央図書館に資料を多く収蔵することが望ましいといえるのではなかろうか。

これらのことを考慮すると、文系部局では資料に寄り添って研究をするという意味で、伊都キャンパスへの移転を機に教育棟・研究棟だけでなく新中央図書館も教育・研究の拠点とすることを検討していただく必要があるかもしれない。そのためには多くの資料が研究者の身近にあるという現在の箱崎地区のメリットを、新中央図書館として主にアクセスの面で実現していく必要があるだろう。

利用者として新中央図書館を学習・教育・研究の拠点として活用するためには、図書館にアクセスしやすいことが最も重要であることは、学生と教員両者へのアンケートにより確認できた。しかし新中央図書館の建設予定地と文系地区との間にはキャンパスの地形に起因する高低差が存在し、一方低年次学生が伊都キャンパスでの学習拠点である現在のセンターゾーンから新中央図書館にアクセスするためには、学園通りを渡り、さらに200メートル以上の距離を歩かねばならない。このことを考えると、学生と教員両者の要望をともに実現させることは決して容易なことではない。

現在九州大学では平成23年10月に基幹教育院を設置し、すぐれた研究、大学院教育、専門教育、を生み出すための基礎教育の充実に重点を置いており、新中央図書館はその基礎教育において低年次学生が自ら学ぶための場として機能することも重要な使命としている。前述したとおり平成24年度には文系地区基本設計が行なわれ、そこでは新中央図書館を含む文系地区の諸施設の配置について関係部局間で検討が行われる予定である。WGとしては新中央図書館が九州大学の総合図書館として機能するためにも、関係部局の教育・研究のための利便性だけでなく、広く全学の学生の図書館利用の利便性についても考慮したうえでの議論が検討の場になされることを期待したい。

(記録)

1. 実施体制

平成 23 年度 新中央 (文系) 図書館基本計画検討 WG

(座長)	堀 貴	人間環境学研究院教授
	柴田 篤	人文科学研究院教授
	佐藤 廉也	比較社会文化研究院准教授
	木村 俊道	法学研究院教授
	関 源太郎	経済学研究院教授
	中里見 敬	言語文化研究院准教授
	小湊 卓夫	基幹教育院准教授
	井上 仁	情報基盤研究開発センター准教授
	大神 智春	留学生センター准教授
	三輪 宗弘	附属図書館付設記録資料館教授
	飯田 昇平	附属図書館図書館企画課長

2. WG 日程

2011. 07. 29	第 1 回 WG
2011. 08. 29	第 2 回 WG
2011. 10. 12	第 3 回 WG
2011. 10. 31	第 4 回 WG
2011. 12. 05	第 5 回 WG
2012. 01. 12	第 6 回 WG
2012. 02. 06	第 7 回 WG
2012. 03. 14	第 8 回 WG

3. 検討および実施経緯

2011. 06. 22 新中央（文系）図書館検討専門部会において平成 23 年度の WG 設置を承認
2011. 07. 29 第 1 回 WG 学生向けと教員向けのアンケートの実施を決定
2011. 08. 29 第 2 回 WG アンケート実施内容と方法について検討

- ・学部 1、2 年生への実施について、全学教育の英語の授業を活用を決定
- ・教員アンケートについて、参考資料の作成を決定

2011. 10. 06 全学教育課より 1 年生対象「英語ⅡB」「英語ⅢA」の各クラス情報を入手
2011. 10. 11 教員向けアンケートの参考資料について、施設部に内容を確認
2011. 10. 12 第 3 回 WG アンケート項目および参考資料について検討
2011. 10. 13 学部 1 年生対象のアンケート実施について、「英語ⅡB」内での実施を決定
2011. 10. 21 アンケート Web 回答フォーム作成（～2011. 11. 08）
2011. 10. 31 第 4 回 WG アンケート項目および参考資料について確定
2011. 11. 09 人文科学研究院教授会でアンケートについて説明、アンケート実施開始

※各部署の 11 月教授会において WG メンバーより説明、アンケート実施
※各部署教員メーリングリストにアンケート案内のメールを送信

2011. 11. 10 学部 2 年生対象授業「英語Ⅳ」内でのアンケート実施を決定
2011. 11. 11 学部 1 年生対象授業「英語ⅡB」でのアンケート実施（～2011. 11. 17）
2011. 11. 15 回答（紙）データ入力作業（～2011. 12. 26）
2011. 11. 22 法学部 2 年生対象授業「行政法Ⅰ」内でアンケート実施
2011. 11. 28 「英語Ⅳ」授業内でアンケート実施（～2011. 12. 2）
2011. 12. 05 第 5 回 WG アンケート実施状況報告と今後の実施方法について確認
2011. 12. 06 各部署教員メーリングリストにアンケート協力のリマインダーメール送信
2011. 12. 09 法学部 3、4 年生対象「比較政治学」、「商法Ⅰ」でアンケート実施
2011. 12. 15 経済学部 3、4 年生対象「上級マクロ経済」でアンケート実施
2011. 12. 20 各部署教員メーリングリストへ最終のリマインダーメール送信
（～2011. 12. 21）
2011. 12. 22 経済学部 3、4 年生対象「貿易投資分析」でアンケート実施
工学部建築学科 3 年生対象講習会内でアンケート実施（※Web 入力）
2011. 12. 26 アンケート入力終了
2011. 01. 04 回答集計開始
2012. 01. 12 第 6 回 WG アンケート回答結果、および集計の第一次報告
2012. 01. 31 アンケート集計・分析報告作成
2012. 02. 06 第 7 回 WG アンケート報告書検討
2012. 03. 14 第 8 回 WG アンケート報告書作成
2012. 03. 22 新中央（文系）図書館検討専門部会にアンケート報告書提出

參考資料

1.

次の百年を担う図書館であること

~アジアのトップブランドとして~

いざなう —encourage [知の入口]

知の世界へ，知の深みへ

つなぐ —link [知の交流]

知と人を，人と人を，過去と未来を

うみだす —create [知の創造]

学生と，研究者と，市民と

はぐくむ —cultivate [知の涵養]

新たなる知を，ゆたかな人を

<学習>

主体的な学びを創出する図書館

<教育>

教育活動に最大限活用される図書館

<研究>

世界水準の学術研究をうみだす図書館

<国際>

世界への扉となる図書館

<社会>

大学の知を社会につなぐ，開かれた図書館

2.

2.1 学习

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

--

3-4

2.2 教育

--

--

--

--

--

2.3 研究

--

--

--

--

--

--

--

--

QIR

ILL/DDS

--

--

--

--

--

2.4 国際

--

--

--

--

--

--
--
--
--

2.5 社会

--
--
--
--
--
--

--
--QIR

2.6 人材育成・研究開発

--
--
--
--

－ 新中央図書館（仮称）計画のためのアンケートへのご協力をお願い －

附属図書館では、貝塚文系地区の移転スケジュールにあわせ、伊都キャンパスに現在の伊都図書館とは別に、新たな図書館（新中央図書館：仮称）をH29年にオープンさせる予定です。

新中央図書館は、九州大学すべての構成員へサービスを展開する総合図書館であるとともに、九州大学の所蔵する人文社会系資料の大半を所蔵する図書館となります。また、学生の方々にとっては、自習・学習の場にとどまらない、キャンパス内での「居場所」でもあるべきだと考えています。

今回のアンケートは、新しい図書館の主なユーザー層となる、全学教育を受ける低年次学生の方々と、箱崎地区と伊都地区の人文社会系学部・学府の学生の方々に、現在の図書館の利用状況と、これから建設される図書館に求める施設・設備・機能についておうかがいして、新しい図書館づくりの計画に活かそうとするものです。

ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

質問1. あなたご自身についておたずねします

1	1	2	3	4		<input type="checkbox"/>
		2	1	2	3	
2						<input type="checkbox"/>
	21					
3						<input type="checkbox"/>
4						<input type="checkbox"/>

質問2. 現在の九州大学の図書館の利用についておたずねします

1		3 4	1 2	1 2		<input type="checkbox"/>
		2)	5)	6)		
2						<input type="checkbox"/>
3	/			PC		<input type="checkbox"/>
	/					
4			PC	OK		<input type="checkbox"/>

※裏面につづきます

5	2)		7
	1		1 2 3 4 5 6 7
	2		1 2 3 4 5 6 7
	3		1 2 3 4 5 6 7
	4	/	1 2 3 4 5 6 7
	5		1 2 3 4 5 6 7
	6		1 2 3 4 5 6 7
	7	1	1 2 3 4 5 6 7
	8		1 2 3 4 5 6 7
	9		1 2 3 4 5 6 7
	10		1 2 3 4 5 6 7
	11		1 2 3 4 5 6 7
	12		1 2 3 4 5 6 7
	13		1 2 3 4 5 6 7
	14		1 2 3 4 5 6 7

6

質問3. 新中央図書館についておたずねします

1 2 5 14 5

2

80 1 240m 3 400m 5
800m 10 800m 10

3

2

1 2 3 4 5

4

	1	PC
	2	
	3	1
	4	e
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	24
	18	365

質問4. その他、現在の図書館やこれからの図書館への要望等がありましたらご記入ください

1

(

2

1

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

0%	10%	20%	30%	40%	50%
60%	70%	80%	90%	100%	

2

3

4

5

2) 3) 4)
24

3

11 3

H15.2.26¹

NDC

H14.8.26 180^(NDC)

1

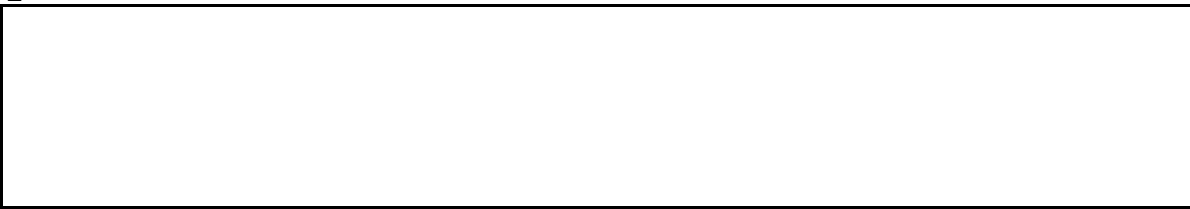


NDC

NDC

NDC

2



4.



m 4 m m m



5



6

1



2



7.

/

/



8

2 2001

WG



20,000

18,000

15,000

12,000

12,000

9



2011.11.1

新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力をお願い

新中央（文系）図書館基本計画検討 WG

附属図書館商議委員会の下の新中央（文系）図書館検討専門部会に設けられた新中央（文系）図書館基本計画検討 WG（以下、新中央館 WG）では、伊都キャンパスへの文系部局移転にあわせて平成 29 年に開館される予定の新中央（文系）図書館（仮称：以下、新中央館）について検討を行っています。新中央館 WG では、今後さらに検討をすすめていくにあたり、人文社会系部局の教員や大学院生の方々を対象にアンケートを実施し、現在のご自身の研究・教育と図書館（図書や雑誌）との関係や、新中央館についてご意見をおうかがいしたいと考えています。

まずは、今回のアンケートにご協力いただく前に、具体的に新中央館をイメージしていただくため、以下のような解説を付しました。アンケートのご参考になれば幸いです。

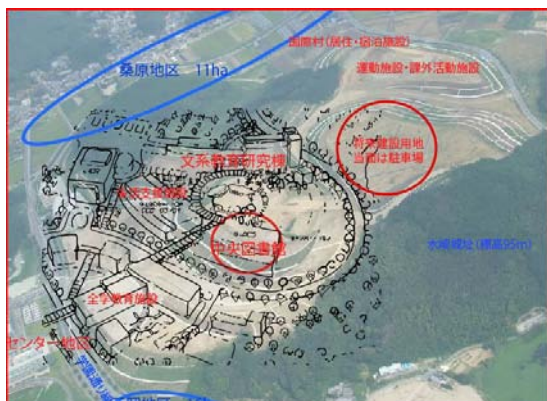
1. 基本計画第一次案の概念と新中央館のイメージ

新中央館 WG の作成した「新中央図書館基本計画第一次案」では、「九州大学の次の百年を担う図書館」としての図書館のかたちを提示しました。

新中央館は、附属図書館全体を統括する総合図書館であるとともに、本学の人文社会系資料の大半を収蔵し、関係する構成員の研究と教育を支援する巨大な図書館となります。さらに学生にとって、学習・研究の場にとどまらず、伊都キャンパスでの主要な「居場所」となり、さらには大学の社会貢献、国際貢献の一翼をも担う、いわば「九州大学の顔」となる図書館を目指しています。

今後の検討では、基本計画第一次案の理念に基づき、より具体的な図書館像について、構想をとりまとめていく予定です。

2. 大学の移転計画における新中央館と研究・教育施設との位置関係



九州大学が 2001 年に策定したマスタープラン 2001（キャンパス計画における基本的な方針）の中では、新中央館については「イースト・ゾーンの一般研究・教育施設との関係、および全学的利用に配慮」、また一般研究・教育施設について「中央図書館へのアクセスに配慮」

と記されていますが、詳細については、今後行われる「文系地区基本設計」のなかで検討されることとなります。したがって、文系地区全体の計画と連携しながら、新中央館の具体的なイメージを創りあげたいと考えています。

3. 面積など、基本的な情報

○伊都キャンパスの文系地区について・・・現在の貝塚地区よりも研究・教育施設と新中央館が近接して立地することになります。

○新中央館の収容予定冊数・・・**350万冊** 今後の増加分（年間37,000冊程度）を考慮

*参考：文系地区移転完了時（平成30年予定）時の蔵書冊数：約260万冊

（「九州大学附属図書館移転計画2007」第196回附属図書館商議委員会了承より）

○新中央館の予定面積 **12,000㎡（最小面積：*1） ～ 31,000㎡（最大面積：*2）**

最小面積を越える部分については、今後文科省との協議により決定されることとなり、現時点で新中央館の予定面積を確定的な数字でお知らせすることはできません。

この条件のもとで、書架や閲覧席、その他利用者のための諸室に使用できる面積（予定面積から管理（事務）部門や、廊下、階段、トイレなどの必要面積を差し引いたもの）を算出すると、**4,200㎡ ～ 16,550㎡**となります。

最小面積での整備となった場合は、350万冊（収容予定冊数）すべてを集密あるいは自動書架に収蔵する必要があり、最大面積での整備となった場合は、350万冊をすべて通常書架（開架：書架で直接資料を手にとることが可能）にすることも可能です。

したがって、最小面積の場合には、各部局に図書館のもつ機能の一部を分有していただく必要があるかもしれませんし、最大面積の場合には、基本的な図書館機能に加えて、研究、教育機能を従来よりさらに充実させることも可能です。

本アンケートでは、こうした背景をお知らせしつつ、みなさまの率直な意見をうかがうことを目的としています。

*1：最小面積について（現有面積として、移転事業の中で確保されている面積）

文系合同図書室書庫を含む、箱崎と旧六本松地区の図書館面積（「国立大学法人等施設実態調査」で調査単位が「大学図書館」とされている施設面積）から伊都（理系）図書館分の面積等を引いた面積

*2：最大面積について

文部科学省の「大学図書館施設計画要綱」（1966）の面積算定基準[図書館の場合、学生数、蔵書冊数に基づく]により算出した場合の面積

参考：各館室の総延面積（「文部科学省学術情報基盤実態調査」、九州大学「図書館要覧」より）

伊都図書館：14,741 m² 中央図書館：13,668 m² 旧六本松図書館：5,115 m²

文系合同図書室：5,740 m² 記録資料館：3,428 m²

（ここにあげた面積は、学術情報基盤として図書館サービスを行っている施設全体の面積であり*1 でご説明した、施設管理上「大学図書館」とされる面積とは異なる基準によるものです）

図書資料の収納や閲覧席に必要とされる面積を以下にあげます。

※実際には、諸条件により数値はかわりますので、あくまで参考としてご覧ください

○資料収納のための面積

通常書架・・・250冊/m²（開架：書架で直接資料を手にとることが可能）

集密書架・・・500冊/m²（開架：資料を直接手にとれるが、同時利用人数に限られる）

自動書庫・・・800冊/m²（閉架：検索した資料を1冊ごとにPCから出庫要求して利用）

※通常書架、集密書架については、運用上職員の出納による利用（閉架形式）となる場合があります。

【収蔵方法の例】

- ・350万冊をすべて通常の開架収蔵とした場合・・・14,000 m²
- ・200万冊を開架、150万冊を集密書架とした場合・・・8,000+3,000=11,000 m²
- ・100万冊を開架、250万冊を集密書架とした場合・・・4,000+5,000=9,000 m²
- ・100万冊を開架、150万冊を集密書架、100万冊を自動書庫とした場合
・・・4,000+3,000+1,250=8,250 m²
- ・100万冊を開架、100万冊を集密書架、150万冊を自動書庫とした場合
・・・4,000+2,000+1,875=7,875 m²

○閲覧席のための面積

1人掛け 2.86 m²/人, 2人掛け 2.16 m²/人, 6人掛け 1.49 m²/人

→ 2.4 m²/人【平均】

座席数については、文科省「大学図書館施設計画要綱」（1966）に算定基準がありますが、ここでは現在の九州大学の図書館の2館の座席数、伊都図書館（740席）と現中央図書館（701席）に基づき、新中央館での座席数を約800席と仮定します。

座席数 800席×2.4=1,920 m²

	13,668	938	800	85.3%
	11,133	921	390	42.3%
	5,740	1,406	914	65.0%

2010 3 31
2010

38 1991.10

	201	7.9%
	1,570	61.8%
(
	500	19.7%
	271	10.7%
	2,542	

85(2009.3)

	90	4.9%
	200	11.0%
	500	27.4%
	1,000	54.8%
	35	1.9%
	1,825	

	370	26.8%
	180	13.0%
	110	8.0%
	800	58.0%
	1,460	

12 26 URL

※

URL

<http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18672>

URL

<http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18518>

>

>

>